



2008年11月

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

シャント感染症 ～その合併症と予防～

名古屋共立病院 腎臓内科

傍嶋 由香（そばしまゆか）

日足もすっかり短くなりました。寒さに向かう季節、風邪の流行も到来します。ますます体調にはお気をつけください。今年の4月から名古屋共立病院に赴任し皆様の診療をさせて頂いております。今後ともよろしくお願い致します。

さて今回は透析患者さんのシャント感染症とその合併症についてお話させていただきます。シャント感染症は合併症により重篤な状態になりやすい一方で、シャント管理により予防が十分できる病気です。みなさんで気をつけていきましょう。



A) シャント感染症とは・・・

シャント血管周囲に細菌が感染し膿がたまる状態です。ほとんどの場合、皮膚が赤くなったり腫れたり熱を持ったりする症状があります。また感染を契機にシャント閉塞することもあります。

最も多い原因はシャント穿刺時に菌が入ることだといわれています。またシャント肢の皮膚にできた傷から菌が進入することもあります。

シャントが自己血管の患者さんに比べ、人工血管の患者さんのほうが重症になりやすいです。一般に自分の体に外から細菌が入ってくると白血球などが戦いなおそうとしてくれますが、人工血管は自分の体ではないので